

前期基本計画 平成30年度 施策方針評価書

政 策：04 ひとにやさしく安心・快適で活力あふれるまちを目指します

基本施策：04 河川砂防・雨水排除施設の整備

施 策：01 安全安心な雨水排除施設の整備

施策担当職・氏名	河川課長 高橋 利昌
-----------------	------------

1. 施策の平成30年度までの実現状況を明らかにする

(1) 施策の内容

	<ul style="list-style-type: none"> ・大雨災害に強い、安心できる河川や排水路の整備、管理を目指します。 ・自然と共生し、潤いと安らぎのある水辺空間の創造が出来ている状態を目指します。 ・都市化の進展により雨水の流出量が増加してきており、また最近は、異常気象等によると局地的な集中豪雨により 浸水などの被害が多発する傾向にあることから、これらの浸水被害が過去に発生した箇所あるいは今後新たに被害の恐れのある地域について、雨水排水施設が整備推進されることにより、住民の安全安心な暮らしの確保が図られている状態を目指します。
--	---

(2) 施策目標値の達成状況

No	この施策に関わる施策目標指標	基準値	上：戦略目標見込値／下：達成値					目標値	進捗状況
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成30年度	進捗率(%)	
1	暮らし 浸水被害件数 単位 件	1	1	1	1	1	1	A	
			1	0	0	0	0	0.0	
2	幸福 滝沢市に愛着を持っている人の割合 単位 %	74.2	75	75.7	76.4	77	77	D	
			72.3	78.3	74.6	69.2	69.2	△178.6	
	単位								

(3) 施策を構成する事務事業及び目標値の達成状況

No	事務事業名 事務事業目標指標	推 移	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
1	1349 河川維持管理事業 河川愛護団体の組織化数 単位 団体数	目標値	5	5	7	7	7	7
		実績	5	7	7	7	-	-
2	9511 外山地内排水路改修事業 事業費による換算延長(年度事業費/総事業費×総延長) 単位 m	目標値	64	89	42	0	0	0
		実績	65	82	31.5	0	-	-
3	10618 仁沢瀬川外治水対策事業 補助事業決定までの進捗率 単位 %	目標値	20	50	100	0	0	0
		実績	20	50	100	0	-	-
	単位	目標値						
		実績						
	単位	目標値						
		実績						

前期基本計画 平成30年度 施策方針評価書

政 策 : 04 ひとにやさしく安心・快適で活力あふれるまちを目指します

基本施策 : 04 河川砂防・雨水排除施設の整備

施 策 : 01 安全安心な雨水排除施設の整備

施策担当職・氏名 河川課長 高橋 利昌

2. 施策の実現に向けての平成30年度までの取り組み状況を分析する

(1) 施策目標の達成（実現）に向けた基本計画期間内の取り組みと方針についての達成（実現）状況

A	達成した
<ul style="list-style-type: none"> 一級河川の県施行木賊川遊水地の整備については、用地買収を概ね終え平成27年度から工事着手しています。 準用河川仁沢瀬川（小岩井地区）の改修について、事業採択に向けた取組みを行い平成29年度より着手しています。 住宅地の中に自然に近い形の水環境がある本市では、災害防止のための草刈り、伐採、浚渫などを重点的に行う必要がありますが、7団体（自治会等）の協力を得て河川の除草を実施しています。 市街地内の雨水排水については下水道事業による浸水対策を進めており、市内河川については、災害復旧事や障害防止事業のほか、早期対応が必要な個所の維持修繕工事を行っています。 	

(2) 基本計画内の取り組みと方針のうち、平成30年度の重点課題の達成（実現）状況

B	概ね達成した
<p>【重点課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 浸水対策修繕工事を含めた河川の適正な維持管理を推進します。 障害防止事業や地域経営推進事業など特定財源に係る事業の継続推進に努めます。 <p>【重点課題に対応した達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 適正な維持管理については、定期的巡回・施設点検・修繕工事等の取組みにより概ね達成しています。 特定財源に係る事業については、継続的に検討及び事業実施に取り組むことにより概ね達成しています。 	

3. 施策の実現に向けての平成30年度実施後での変化を認識する

(1) 施策の実現に影響する社会環境変化

B	社会環境変化あり
<p>近年、局地的な集中豪雨や地震などによる災害が多発してきており、市民の生命と財産を守るため、災害に対する予防保全対策の必要性が更に高まっています。</p>	

(2) 基本施策との関連性から施策の見直し

A	必要なし
<p>近年、気象状況の変化から多様な災害が頻発しており、市民の生命と財産に多大な影響を与える可能性が高くなっています。</p> <p>今後も継続して取り組んでいく必要があります。</p>	

4. 施策の実現に向けての今後の取り組みと方向性を明らかにする

(1) 平成30年度方針策定に際し、今後の方向性や引継課題

B	課題あり
<p>【今後の方向性】</p> <p>河川の適正な維持管理など短期的緊急的な取組みを第一に優先し、その他多大な時間と費用を必要とする浸水対策事業について、想定浸水被害規模や財源確保状況を勘案しながら計画的に進めるものとします。</p> <p>【引継課題】</p> <p>浸水対策事業について、想定浸水被害規模や財源確保状況を勘案した計画の推進をします。</p>	

